



為石小学校の合言葉 「ためし 最高! ~地元で学び 地元を活かし 地元とともに行動する子ども~」



学校だより



ためし

○楽しく めあてをもって しっかり学ぶ
○正しく めあてを しっかり守る
○たくましく めあてに向かって しっかり鍛える



令和7年9月19日号 文責 上久木田 雄二



あいまいの難しさ

地域学校保健委員会を開催しました。
多くの保護者の皆様に参加していただき
ありがとうございます。

私なりの学びを共有したいと思いま
す。もし違った考えをお持ちの方はぜひ
聞かせてください。

会のおわりの言葉で話しましたが、一
番印象に残ったことは、

あいまいさの二つの側面の存在

です。

講演の内容の中心は「境界線（バウン
ダリー）」でした。境界線とは、

YESとNOを分ける線

どこで線を引くか自分で決めていい
相手によって線引きを変えていい
その時によって変えていい

違いを認め、対等な関係を築くもとな
る考え方だそうです。

この「あいまい」な境界線を認める考
え方を皆さんはどのくらい許容できま
すか。

例えば、学校生活の中の友だち関係に
おいて、次のことが起こったとします。

AさんがBさんの遊びの誘いに「YES」
と返事した次の日、Cさんの誘いにAさ
んが「NO」と言うのです。

みなさんが、Cさんの親なら、「Aさ
んから仲間外しにされた」と思いま
せんか。今なら「いじめ」と認定されかね
ないのです。

しかし、その境界線を認めなければい
けないのです。

子どもたちは、このリアルで対面の関
係の中にある「あいまいさ」を認めるこ
とは大変苦手です。

一方、ネットやSNSほど「あいまい」
な世界はありません。何が現実で何が本
当なのかを吟味する力が求められるの
は、この「あいまいさ」が原因です。

リアルな「あいまいさ」は認められな
いのに、SNS世界の「いいね!」に代表
される「あいまいさ」は簡単に認め、受
け入れるのです。このことを講師は「錯
覚」という言葉で注意喚起をしていま
した。

現実の世界で必要な力は、リアルの中
でしか鍛えることができません。リアル
な「あいまいさ」を認める経験は、リアル
な「あいまいさ」にぶつかり、跳ね返
される経験が必要なのときがあるとい
うことです。

HPはこちら



二次元コード読み取り 「カラー版は、ホームページでご覧いただけます。」

